

味・水



沖縄調理師専門学校長

新島正子

さをあらためて有難く思いました。

今年のはじめ粟国島に行つた時のことです。

民宿でのバスの湯水が、豊富なのに驚きました。尋ねますと、粟国島では、海水淡水化装置が村に整備され、水には不自由していませんとのことでした。

島嶼県の沖縄にとつては、海水も水資源の一翼を担っていることが良く分り、他の水資源に頼れない離島の観光振興にも欠かせない大切なこと

だと思えました。

料理の隠れた主役の水

新島 毎日何気なく飲んでい

料理と水も、切っても切り離せない関係があります。おいしい料理や飲み物も、いい水があつてこそ作れるもので、水はむしろ主役とも言えるほど、料理に影響を与えています。

米を炊く時も、米をていねいに水洗いし、水に浸してから炊くとおいしいご飯ができますし、野菜のアク抜きも、水なくしてはできません。このように、水はふしぎな力を持っています。那覇の水が、まだ硬度の高

目をいただきましたかと思ひます。基本的には、三つの方針を柱に据えて、その達成に向けて具体的施策を展開します。

一つ目は、「すべての市民が利用可能な水道」です。

整備が進む天久新都心地区をはじめ、二十一世紀に向けてたまちづくりのなかで、水道の基盤整備も並行して進める

こと、平たく言えば、市内に住居を構えると即水道水の供給が受けられると言うことです。

二つ目は、「安定性の高い水道」をめざすと言うことです。

これは、需要増に備えた水の確保と今回の阪神大震災を教訓に災害に強い施設の整備を図ることです。

水源開発については、国と県がダムの建設を進めておりますが、お世話になつていて自治体としてバックアップを強力に進めることです。

あわせて、老朽化した管路の更新と配水池容量のレベルアップによる、緊急時給水拠点の確保です。

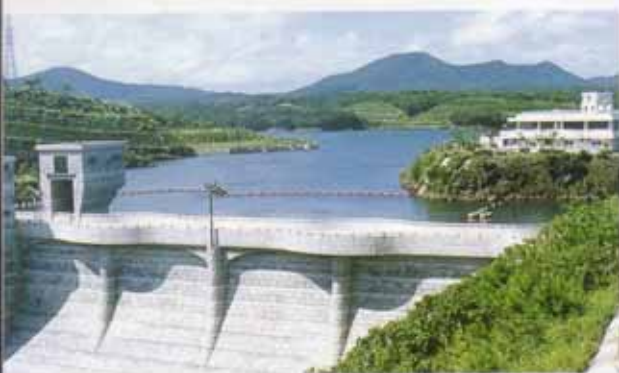
三つ目は、「安全な水道」です。

市民がいつでも不安を抱くことなく、安心して水道を利用できるような水道の水質確保のための施設整備の促進で、既に北谷浄水場において、高度浄水処理施設が稼働しております。市の水質試験もより徹底いたします。

これらの施策がより充実されますと、那覇市民に、いつでもどこでも、安全でおいしい水が供給出来る二十一世紀の「高水準な水道」ができあがります。

新島 市長からご説明いただいた二十一世紀に向けた水道行政を市民のためにしっかりと進めていただきたいと思ひます。

いつでも蛇口をひねると清浄なおいしい水がほとばしる、断水のない水道でゆたかな市民生活の実現をお願いいたします。



↑ 漢那ダム